

真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第 26 号

平成29年(2017年)
7月1日 発行



沸きあがる歓声（大阪市西区・京セラドーム大阪）

「叔母さんの具合どうですか」とたずねてくださる門徒さんに「おかげさんで順調に弱ってきています」と答えると、皆さん私の意外な返事にクスツと微笑まれた。

先代住職の亡き後、甥の私が寺を継ぎ叔母（前坊守）とは三十年間同居した。二月に心不全で入院した叔母は、外科的治療の必要から大病院へ転院を勧められた。私が病院の相談員さんに「転院しない選択肢はないのか」とたずねると「ここは看取りの施設ではありません」との返事。「この病状は在宅であれば老衰でしょ？」と聞くと「おっしゃる通りです」との返事も。

転院後の治療で、症状は一時的に改善されたが、体は日に日に衰えていく。主治医から更なる延命のための処置も提案されたが、私がお断りし了解してもらった。

「老」も「死」もまた自然^{じねん}のことわりであるから、弱っていくことを順調と受け入れた。そして「いつかお前もこうなる」と教えられたように思う。

（長田 譲）

と う ひ が ん 到 彼 岸



～大阪別院
彼岸会法話より～

高照寺 すみや としき 隅谷俊紀

たので、あわててご門徒さん宅にお詫
びの電話をいれたことでした。

そして次の日には妻が、続いて息子
が……。私以外の家族全員が順番に
インフルエンザにかかったのです。

案じていたのは

そしてなによりも不安に思ったのは、
私自身が感染してはいないかというこ
とでした。インフルエンザにかかるこ
うことは、人前で話すことができな
いということを意味するからです。

しかし数日が過ぎても、体調に変化
がなかったのでひと安心。

布教を終え、家に戻ったときには、
家族もすっかり良くなり、元気いっぱ
いで出迎えてくれました。「インフルエ
ンザにならなくてよかったね」と。

その言葉にハッとさせられました。
実際、私はどれだけ家族のことを心配
していたのか。私が案じていたのは自

身の健康状態、月参りのお詫び、布教
できるか、と自分のことばかり。

光明となつて

「自分のことしか考えない自身の姿に
気づいてほしい」。阿弥陀仏は光明とな
つてこの私に願いをかけてくださって
います。ここでいう光明とはスポット
ライトのような光ではなく、周りにい
る方の何気ないひと言であつたりする
のです。

九州では「仏法によって、私の本当
の姿があらかになる」と話していた
にもかかわらず。家に戻つてようやく、
話の中身を自分自身にいただくことが
できたのです。

(平成29年3月20日勤修の

大阪別院彼岸会法話より)



如^{にょ}是^ぜ我^が聞^{もん}

真宗では…という落とし穴

大阪教区

最勝寺

中井賢隆なかい けんりゅう師



身を灯とせよ。自灯明と法灯明は別々のことではなくて、ひとつのことであると言われました。

教えを依りどころすると同時に、教えに照らされたわが身を依りどころとする、この「自灯明・法灯明」というお釈迦さま最後の教えが、今回のお話に重なることと受け止めさせていただきました。

平成29年4月6日、大阪教区の住職を中心とする法友会の研修会が開かれ、中井賢隆師より「真宗では…という落とし穴」という講題でお話いただきました。

る、浄土を真の依りどころとするということ抜きにして、決して語ることのできない言葉であるとおっしゃいました。

「真宗では…」と言うことによって、自分の思いを是としたところに腰をおろし、あくらをかいてはいないか。

浄土の真宗

中井師は、私たち浄土真宗の僧侶は「真宗では…」という言葉を口にするが、その言葉によって大切なことがうやむやになっているのではないかと問題提起をされました。

そして、浄土を真の宗とす

例えば「先祖供養」ということについて「真宗では先祖を供養するために、仏さまにお参りするではありません」と頭ごなしに言うのではなく、先祖を供養するということが、どういうことか、更には、亡

き人を通して、今生きている私たちが教えに出遇っていくということがどういうことなのかを共に確かめ、たずねさせていただくことが大事だと示されました。

自灯明・法灯明じとうみょう ほうとうみょう

また中井師は、お釈迦さまの最後の教え、「自灯明・法灯明」についても触れられました。法を灯とせよ。そして法に照らされたわが身を灯とせよ。すなわち教えに照らされたわが身であった、そのわが

私は、「真宗では…」という言葉を、私の思いを是として語ってはいないか、私のこの身の上に生きてはたらく教えを依りどころとして語っているかどうか、私自身が深く問われたお話として聞かせていただきました。

(佐々木太一 記)

大阪の礎 石山本願寺



南御堂内にある石山本願寺の模型



石山本願寺推定地の石碑



井戸の粹石

「当国摂州東成郡生玉の庄内大坂といふ在所は、往古よりいかなる約束のありけるにや」

大阪の由緒

本願寺第八代蓮如上人の『御文章(御文)』に「大坂」とあり、これが地名として大阪があらわされた最初の文献であるといわれています。

当時、京都の山科にあった本願寺が焼き討ちに遭い、明応五(一四九六)年、この「大坂」(現在の大坂城のあたり)に蓮如上人は小さな寺院を建立しました。するとたちまちお寺を中心として、主に商工業者等の町人による二千軒を越す家屋敷が集まり、寺内町という一つの都市が造られました。これが

大阪の都市化の始まり

です。

やがて本願寺は織田信長と対立し、元亀元(一五七〇)年から十一年間に及ぶいわゆる石山合戦の後、大坂を退去し、天正十九(一五九二)年に現在の京都七条へ移転しました。

石山本願寺の遺構はいまだ確認されていません。しかし、大阪市教育委員会は大阪城二の丸にある大阪市立修道館あたりを石山本願寺推定地としています。そこには豊臣時代の石垣が確認された井戸の粹石もあります。

現在は大阪城公園として観光客で賑わっていますが、ちよつと木陰に入り、大阪城の地下に眠る商業都市大阪の礎に、思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

(葦名 彰)

【アクセス】大阪城二の丸へは
・JR 大阪環状線「大阪城公園駅」より徒歩 20 分
・地下鉄谷町線「谷町 4 丁目駅」1-B 番出口より徒歩 15 分

ごえんさんを訪ねて

さいえんじ
西園寺

ささき まさと
(寝屋川市) 佐々木雅人 住職



西園寺は戦国時代の天文元（一五三二）年の創建で、覚道を開基とします。明治時代には淀川の洪水により大きな被害を受けますが、その後再建されました。そして平成六（一九九四）年には、先代ご住職の念願がかない、ご門徒の皆さまのご協力により現在の本堂が建立されました。また今年には庫裏の新築工事が完成されるということです。

経験を活かして

ご住職は、二年前に先代が亡くなられたことを機縁に継職されました。海が好きであったこともあり、大学では水産学を学ばれ、その専門性を活かした行政の仕事に長年携わってこられました。

趣味は旅行とのことで、特に海外には、アメリカやヨーロッパ、アジアへと五十回以上行かれたという本格派です。自分とは全く考え方が異



本堂内陣

なる文化に触れ、言葉や思いが通じない世界に新鮮さを覚えた経験から、ツアーではなく個人での海外旅行に惹かれるようになったそうです。残念ながら最近は忙しくてなかなか行く機会はないとのこと。

このような仕事や趣味を通じて得た、お寺とは違う社会、異なる世界に身を置いてきたという貴重な経験を住職として活かしていければとお話くださいました。

住職として

ご住職は若い頃からご本山で様々な僧侶の研修を受け、長年御堂式務衆としてもご尽力されてきました。また大阪教区の佛教青年会にも参加してこられました。それは若い頃からお寺というものが常に念頭にあり、将来お寺を継いでいくのだという思いがあったからだそうです。

「ご門徒の皆さまが本堂に協力的で、温かくお寺を支えてきてくださっていることが有り難いです。第十七代住職として、法話のご縁を大切にするとともに、今の時代にあった様々な取り組みに挑戦していきたいと思います」と抱負を語ってくださいました。（門川崇志）

■西園寺(さいえんじ)

〒572-0054

寝屋川市下神田町29-8

電話 072-826-6396

Fax 072-826-6396

大悲トピックス

■佛青懇和会・研修旅行

5月29日・30日、佛青懇和会の研修旅行（広島・呉方面）に行ってきました。

29日には呉にある大和ミュージアムを訪問しました。呉の歴史や第二次世界大戦で沈没した戦艦大和をはじめ、当時の戦艦や飛行機、潜水艇などが展示されていました。

30日には宮島と広島市内（平和記念公園）に行き、原爆ドームや爆心地、そして平和記念資料館を見学しました。原爆の悲惨さ、残酷さがよく伝わる見学となりました。

今回、広島を訪れ改めて何万人もの犠牲者の上に、今の平和があることを深く胸に刻みました。（佛青懇和会会長 寿栄松正顕）



㊦ 今回の参加者一同
㊧ 原爆ドーム前にて

■「大悲の会」が後援する布教大会を開催

5月8日、報恩寺様（堺市東区・寺田宗隆住職）にて「大悲の会」がコーディネートする布教大会が開催されました。

大阪教区所属の布教使である玉出宗順師（光福寺・大阪市西成区）、佐々木太一師（常光寺・大阪市淀川区）、藤井良丸師（仏願寺・大阪市東住吉区）の三名からご法話をいただきました。（大悲の会一同）



㊦ 藤井師の法話の様子
㊧ 聴聞されるご門徒の皆さん

■懇志御礼

三重県いなべ市 東光寺様
川崎市宮前区 長安寺様

■お悔やみ 謹んで哀悼の意を表します

第四組・正念寺
長田系枝 行年86歳

（4月9日寂）

御本山 **近** 用達

株式会社 **川勝法衣店**

フリーダイヤル 0120-075-055
（〒600-8344）京都市下京区花屋町通油小路東入
電話 (075) 371-0367(代)
FAX (075) 371-5088

本山佛光寺 御用達

石の総合メーカー
株式会社 **石留石材**

ホームページ
<http://www.ishitome.co.jp>
本社：京都市中京区堀川御池角
TEL 075-841-1149 FAX 075-812-5826

- 大正三年創業の信頼と実績 -

石留石材株式会社

各種石塔・石仏・記念碑
寺社建築石材まで

○ご相談は下記フリーダイヤルへ 携帯・PHS OK

0120-53-5578

〔本社・工場・展示場〕藤井寺市津堂2丁目9番29号

（株）小林造園

代表取締役：小林正典
〒603-8442
京都市北区西野山東町 36-1
tel 075-491-4256
fax 075-491-9432

燦ホールディングス グループ

まごころ葬儀を創造する。

公益社

公益社 ご葬儀相談センター（24時間・365日受付・通話料無料・携帯電話OK。）
0120-567-701

※2012年5月現在 ㊦-0131

燦ホールディングス グループ

なごみ庵

きた・は・ま
KITAHAAMA

法要料理 ■四條畷店 ☎0743-78-7521
■瓜破店 ☎06-6769-0140
■伊丹店 ☎072-773-7531

※2012年5月現在 ㊦-0132

だいひ 絵日記

- 4月 6日(木) 法友会研修会(真宗では…という落とし穴・講師:中井賢隆 師)
 4月 26日(水) 大悲の会編集会議(第26号読み合わせ)
 5月 18日(月) 大悲の会後援・布教大会(報恩寺にて)
 5月 15日(月) 大阪教区臨時総会
 5月 18日(木) 大悲の会編集会議(第26号読み合わせ)
 5月 18日(木) さつき会総会 ①
 5月 22日(月) 佛青懇和会総会
 5月 29日(月) 佛青懇和会聖跡参拝研修(広島・呉方面)(~30日)
 6月 6日(火) 法友会総会 ②
 6月 6日(火) 大阪教区総会
 6月 23日(金) さつき会研修会(親鸞聖人の仏教讃歌に学ぶ・講師:藤末光紹 師)
 6月 25日(日) 大悲の会編集会議(第26号発送作業・第27号内容検討)

(法友会=住職会、さつき会=坊守会、佛青懇和会=青年会)



東
横
石

慶事、仏事、各種会合の際は、
和光庵の仕出し料理を
御利用下さい。

株式会社 和光庵
〒543-0073 大阪市天王寺区生玉寺町3-32
TEL06-6774-8090 www.wakouan.co.jp

西天満店 結心(ゆいごころ)
〒530-0047 大阪市北区西天満4-10-5-1 階
TEL06-6809-6311 www.yuigokoro.com

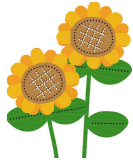
 株式会社 モントラベル
 〒550-0013
 大阪市西区新町1-8-1 行成ビル
 TEL. 06-6531-1344
 FAX. 06-6531-1346
 http://www.monto.co.jp
 仏跡参拝ならお任せください!

浜屋は関西最大級の
お仏壇・お仏具・墓石・御寺院お仏具の
専門店です。
 やすらぎの 世界を創る  浜屋
 通話料無料/浜屋姫路本社フリーダイヤル
 お問い合わせ
お申し込みは **0120-1616-94**
 ●受付時間/午前10時~午後6時30分

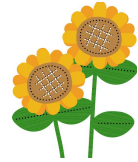
協 賛
 法 友 会
 さ つ き 会
 佛 青 懇 和 会

和奏の会 翠笛会
 寺院のイベントに邦楽(尺八・
 箏)出張演奏いたします。
 曲目はリクエストできます。
 事務局:阪南市新町 宝林寺
 電話 072-472-1414
 http://homepage2.nifty.com/suiteki/

創業安政3年
 京 佛 具 調 進
 森田屋
 福野御佛具處
 〒601-8424
 京都市南区西九条猪熊通九条上る
 tel. fax 075-691-8423



どなた様でもお参りいただけます 法要・法話会のご案内



大阪別院孟蘭盆会

8月13日(日) 午後2時
8月14日(月) 午後2時
8月15日(火) 午後2時

大阪別院彼岸会

9月20日(水) 午後2時
法話：門川崇志 師
9月23日(土・祝) 午後2時
法話：長田 讓 師
9月26日(火) 午後2時
法話：葦名 彰 師

本山佛光寺茶所布教

毎日午前7時半
※大阪教区布教使の担当は下記の通りです
9月11日(月)～15日(金)
法話：隅谷俊紀 師

大阪教区寺院で開催される法話会

◎常光寺(大阪市淀川区・06-6391-5319)
7月8日(土)～10日(月)
「紫陽聞信会」 午前9時半、午後1時
8日 法話：西田眞因 師
9日 法話：釈 徹宗 師
10日 法話：藤谷信道 師(午前)
法話：一楽 真 師(午後)

※詳細は各寺院にお問い合わせください

「大悲の会」後援・布教大会

高照寺(堺市北区・072-252-2122)
7月15日(土) 午後3時
法話(第一席)：門川崇志 師
法話(第二席)：道野真弘 師
法話(第三席)：長田 讓 師

編集秘話

今回の担当は「ごえんさんを訪ねて」。取材に向かい、1時間ほどお話を聞かせていただきます。すでにご縁をいただいているご住職の皆さまですが、対面してじっくりとお話させていただく機会はありません。知っているようで、知らなかったご住職の意外な一面が垣間見えて、いつもビックリです!!(門川)

編集後記

『大悲』を発行して丸5年。最近つくづく感じるのは、メンバーのチェック力が向上したことです。担当者が見逃した小さなミスであっても、他の誰かがきっちりとフォローできています。とはいえ、ミスはつきもの。前号の「編集後記」下の箇所で「第25号(春号)」のところが、「(冬号)」となっていました……。(^.^; (隅谷)

大阪教区・別院だより『大悲』 第26号(夏号)
平成29年(2017年)7月1日発行 (発行部数2200部)
発行：大悲の会
事務所：佛光寺大阪別院内
〒558-0011 大阪市住吉区荻田6-11-24 電話 06-6691-1362
郵便振替口座：口座番号「00990-4-305218」加入者名「大悲の会」
大悲ホームページ <http://daihi.org/>

大悲の会
長田 讓(会長) 佐々木太一
隅谷俊紀(副会長) 葦名 彰
寿栄松正顕(会計)
玉出宗順(会計)
門川崇志(監事)